

大学院リサイタルシリーズ②

## 音楽の歓び

9月26日(土) 15:00 開演(14:30 開場)

シルバーマウンテン1階

1. 友原 安佐子 (チェロ)

M.ラヴェル／マ・メール・ロワ

2.北川 乃梨子 (ヴァイオリン)

G.フォーレ／ヴァイオリンソナタ 第1番 イ長調 作品13

3.有賀 瞳 (ピアノ)

S.ラフマニノフ／楽興の時 作品16より 第1、3、4、6番

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

## M.ラヴェル//マ・メール・ロワ

友原 安佐子（チェロ）

ラヴェルは1875年、フランスで生まれるが、彼の音楽は、スイス出身の父と、バスク人の母の影響も大いに受けている。ストラヴィンスキーがラヴェルを「スイスの時計職人」と比喩したことからもわかるように、堅固かつ緻密な構成が特徴で、卓越した華麗な管弦楽曲から、「オーケストラの天才」「管弦楽の魔術師」と呼ばれる。バスク出身の最愛の母の影響で、スペイン音楽への関心が深く、その要素を取り入れた楽曲が多い。

《マ・メール・ロワ》は、「お母さんガチョウ」の意で、英語圏では「マザー・グース」として有名。

フランスの文豪シャルル・ペローの童話集などからインスピレーションを受けてつくられ、ラヴェルの友人ゴデブスキー夫妻のふたりの子どものために書かれたピアノ連弾曲。今回は、マーク フィッシュにより編曲されたチェロとピアノのためのバージョン。5つの曲のうち、〈眠りの森の美女のパヴァーヌ〉、〈おやゆび小僧〉、そして終曲の〈妖精の園〉は、ペローの童話に基づくもの。〈バゴダの女王レドロネット〉は、ドーナワ伯爵夫人の小説『緑の蛇』。

〈美女と野獣の対話〉はド・ボーモン夫人の『美女と野獣』に由来している。この曲を作り始めた1908年には、やはりピアノ組曲「夜のガスパール」が作曲されている。1910年に完成し、同年4月20日にパリ・ガヴォーホールにて初演。翌年の1911年にはラヴェル自身がつくりあげた管弦楽版が完成、1912年にはテアトル・デザールの支配人ジャック・ルーシェからの依頼により、パレエ版に編曲される。

## G.フォーレ//ヴァイオリンソナタ第1番 イ長調 作品13

北川 乃梨子（ヴァイオリン）

ガブリエル・フォーレは19世紀後半から20世紀初頭にかけて活躍し、その後のフランス音楽界に大きな影響を与えた作曲家である。

室内楽というジャンルにおいて特に名作が多いが、1876年に作曲されたヴァイオリンソナタ1番は、彼の室内楽曲のうち最も早い時期に書かれ、また最もよく知られている作品である。

### 第1楽章 アレグロ・モルト イ長調 2/2 ソナタ形式

第1主題はピアノによむて歌い出される。フォーレが好んだシンコペーションの形をとり、万人を魅了する美に溢れ、全体は息長く歌い続けられる。バスパートのオクターヴの動きも印象的である。この第1主題はイ長調で始まるが、次にヴァイオリンによって嬰ハ短調で繰り返される。第2主題は嬰ハ短調でヴァイオリンに現れ、ここでもピアノのたくみな和声の導き方、とくにバスのクロマティックな順音進行が際立っている。展開部のはじめの部分はヴァイオリンとピアノのかけ合いによって、第1主題の最初の動機が、また後半では第2主題の動機が現れる。再現部では第1主題は最初からヴァイオリンとピアノのオクターヴで歌われ、二回目に提示部と同じく嬰ハ短調でヴァイオリンのみが再び繰り返す。第2主題はイ長調に移され、コーダはピアノの高音部にウナ・コルダで奏される分散和音にのって第1主題がもう一度歌われ、イ長調を確立しながら幕を閉じる。

### 第2楽章 アンダンテ ニ短調 9/8 三部ソナタ形式

この楽章の構造は3部分に分けることが出来る。第1部分に調を異にする二つの主題が現れ、第2部分もこの二つの主題がその順序で調的な変化を受けて出てくる。第3部分はほとんど最初の部分と変わらない。このことから中間部は本質的な展開部とは言い難く、全体は単純な二主題三部ソナタ形式という古い型をとっている。

### 第3楽章 アレグロ・ヴィーヴォ イ長調 2/8 三部形式

第1主題は目の回るように速い楽想。躑きながら駆け回るような、身軽な感じが表れている。後半、転調を準備するピアノの和音の中から新しい旋律の断片が浮かび上がって次の主題を前もって示す。やがて変ニ長調に転

じ、第2主題が四分の三拍子で出てくる。また最初の部分に戻り、次に感情の表情のこもった中間主題が出てくる。そのあと、はじめのスケルツォの部分が再帰する。

### 第4楽章 アレグロ・クアジ・プレスト 6/8 ロンド形式

第1主題は軽やかな美しさに満ちており、ピアノのリズミックな和音にのって、ヴァイオリンが息長くのびやかな旋律をそこはかたなく歌い始める。そのあとピアノがそれにつられて歌い出すかのように同じ旋律を繰り返す。旋律の優雅な美しさと共に、和声の微妙な自由さが全曲を支配する。この楽章は、何度でも主題の再現を待ち焦がれさせる魅力に溢れている。

## S.ラフマニノフ//楽興の時 作品16より 第1、3、4、6番

有賀 瞳（ピアノ）

S.ラフマニノフは19～20世紀に活躍した作曲家、ピアニストである。作曲家としてはもちろんだが、非常に巨大な手と高い演奏技術を武器にピアニストとしても名が高く、自身の楽曲の多くを自演したことで有名であり現在も録音が多数残されている。

1896年に作曲された《楽興の時》は異なる性格を持つ全6曲から成る作品集である。題名はシューベルト作曲の楽興の時に影響を受けたと言われているが内容は似つかず、最終2曲を除いて短調に偏り悲愴的な情景、極めてヴィルトゥオーズな要求はリストやショパンなどから影響を受けているようにも感じられる。奇数番の曲はゆっくりと叙情的、偶数番の曲は対照的にきわめて速く劇的な性格を持ち、曲全体を通してロシアの広大な大地の中で色鮮やかに移りゆく繊細で美しい情景に彩られている。

### 第1番 変ロ短調 Andantino "やや緩やかに"

波打つ湖を思わせるような静かな哀愁漂う曲想。夢が消えるように弾け、深い悲しみに落ちてゆく。

### 第3番 ロ短調 Andante Cantabile "歩く速さで 歌うように"

「葬送行進曲」とも言われる第3曲、重厚感のある息の長い旋律は俯きながらぼつぼつと歩く人を思わせる叙情的な楽想である。哀愁を帯びたテーマの下で奏でる重いリズムが旋律との対位的な手法を連想させることが葬送行進曲と言われる所以である。

### 第4番 ホ短調 Presto "急速に"

超絶技巧練習曲の様な左手の急速なパッセージに乗って情熱的なメロディが奏される。テーマは反芻されながら大きく成長し劇的に幕を閉じる。

### 第6番 ハ長調 Maestoso "壮大に"

非常に大きなスケールでフィナーレにふさわしい堂々とした、まさに「マエストロ」な楽想である。

## ●Profile

友原 安佐子 (チェロ)

鹿児島短期大学(現鹿児島国際大学)音楽科(ピアノ専攻)首席卒業。

洗足学園アンサンブルアカデミーを経て、洗足学園音楽大学弦楽器コースチェロ専攻卒業。

オタワ国際音楽コンクール声楽部門(ソプラノ)金賞受賞。チェロ を木越洋、アティッラ・パストール、銅銀久弥、小澤豊、室内楽を羽川真介、川田知子の各氏に師事。絵本に音入れし、 保育園、幼稚園、地域の子育てサロンにおいて、演奏活動を行っている。

北川 乃梨子 (ヴァイオリン)

4歳よりヴァイオリンを始める。洗足学園音楽大学弦楽器コース卒業。

ナムユン・キム、オレグ・クリサ、フェデリコ・アゴスティーニの各氏来校時にマスタークラスを受講。

第21回、22回洗足学園音楽大学室内楽オーディション合格者による演奏会に出演。

学内オーディションにて準セクションチームに選抜され、室内楽演奏会に出演。

2018年度ラ・フォル・ジュルネにオーケストラで出演。

ザルツブルク=モーツァルト国際室内楽コンクール 2020 inTokyo 奨励賞。

これまでにヴァイオリンを坂口真紀、水野佐知香の両氏に師事。室内楽を水野佐知香、羽川真介、北島公彦、古川原裕仁、大野かおるの各氏に師事。

有賀 瞳 (ピアノ)

東京都出身。都立総合芸術高等学校音楽科を経て洗足学園音楽大学ピアノコース卒業。

32、33回JPTAピアノ・オーディション奨励賞受賞。第10回ベートン音楽コンクール大学・院生Aの部全国大会ベスト30賞受賞。第6回東京国際ピアノコンクール一般部門第4位(2位無し)。2011年、英国王立音楽検定試験(ABRSM)実技部門においてグレード8を優秀賞で取得。ラフォルジュルネ TOKYO2019に出演。

大学在学中、2017年度ピアノコース特別選抜演奏者に認定。同年、P.I.チャイコフスキー/ピアノ協奏曲第1番を現田茂夫氏指揮、洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団と共演。

卒業時、優秀賞を授与され卒業演奏会に出演。大学院ピアノコンチェルトの夕べにてR.シューマン/ピアノ協奏曲イ短調を指揮の松元宏康氏と共演。小林仁、ヨゼフ・アントン・シェラー、ヨハン・シュミット、ルイス・フェルナンド・ペレス、江口玲、青柳晋、迫昭嘉の各氏の特別レッスンを受講。

これまでにピアノを浜田佳由里、北神純一、室内楽を羽川真介の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学大学院ピアノコース2年次に在籍。ピアノを北島公彦、室内楽を市野あゆみ、安永徹、北島公彦の各氏に師事。